

3) 水温・塩分境界条件

モデルの開境界における水温・塩分の境界条件は、和歌山県、徳島県及び岡山県が実施した広域総合水質調査を利用し、鉛直方向及び時間方向に補間して設定した(図 3.5)。

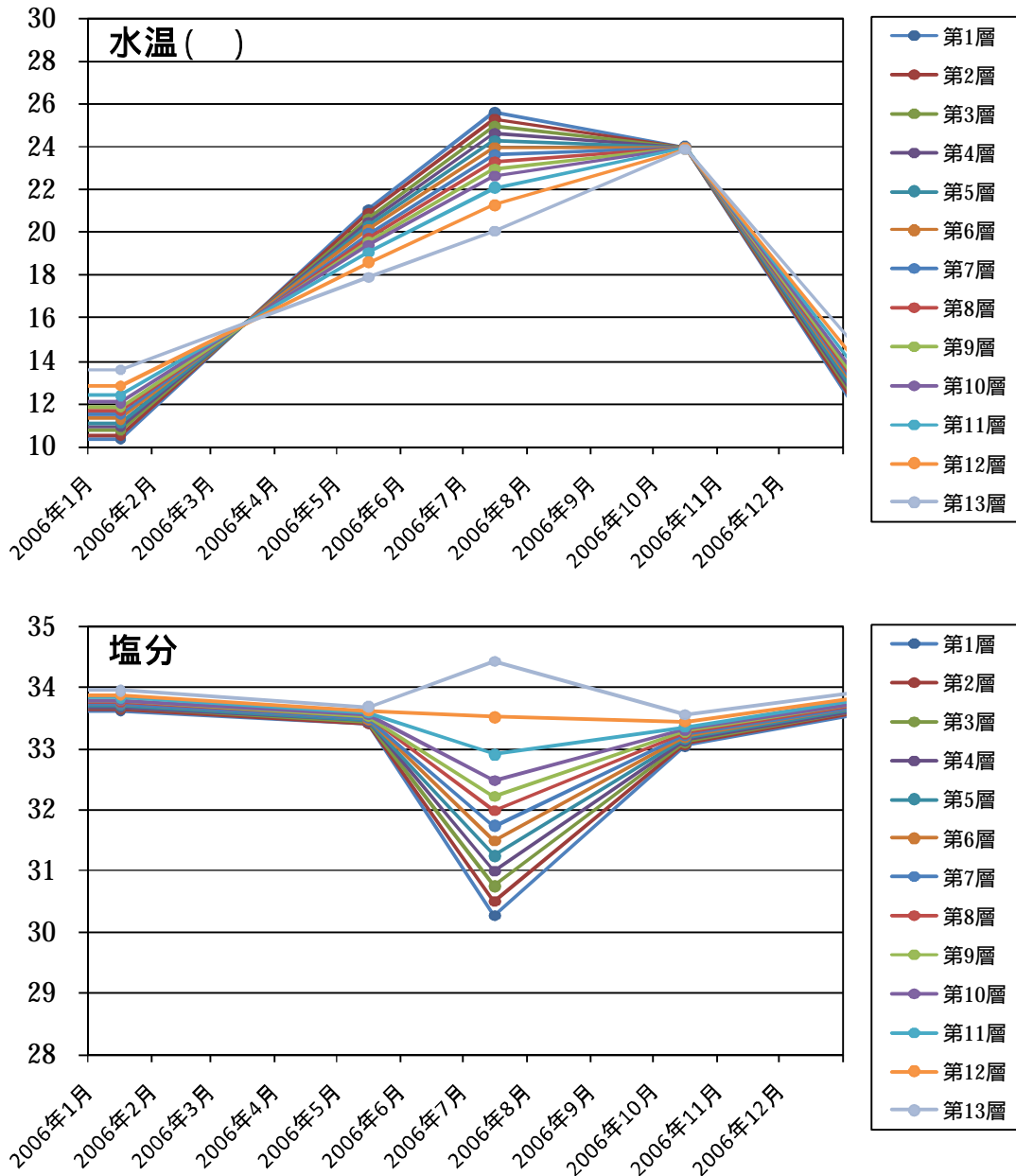


図 3.5 境界格子における水温・塩分の設定値(2006年)

4) 境界水位条件

モデルの開境界における境界水位条件には、境界位置に近い各検潮所（気象庁）の調和定数を元に、主要4分潮を設定した。

表 3.2 境界における調和定数

境界位置	紀伊水道(南端)				瀬戸内海(西端)			
	東端		西端		北端		南端	
地点名	白浜		橘		水島		伊予三島	
項目	振幅	遅角	振幅	遅角	振幅	遅角	振幅	遅角
	(cm)	(°)	(cm)	(°)	(cm)	(°)	(cm)	(°)
K1	22.0	189.2	22.3	192.3	33.2	236.3	32.6	235.4
O1	17.0	168.4	16.9	171.5	24.6	212.3	23.8	212.2
M2	47.8	173.2	44.3	173.7	116.6	323.2	100.7	327.7
S2	21.5	197.5	21.0	199.2	42.9	357.5	36.5	0.8

3-1-2 計算結果

1) 流れ

(1) 潮流楕円

海上保安庁が 1956～1995 年にかけて行った流況調査結果を用いて、潮流楕円及び平均流の比較を行った。図 3.6 に、潮流楕円の比較に用いた調査地点図を示す。

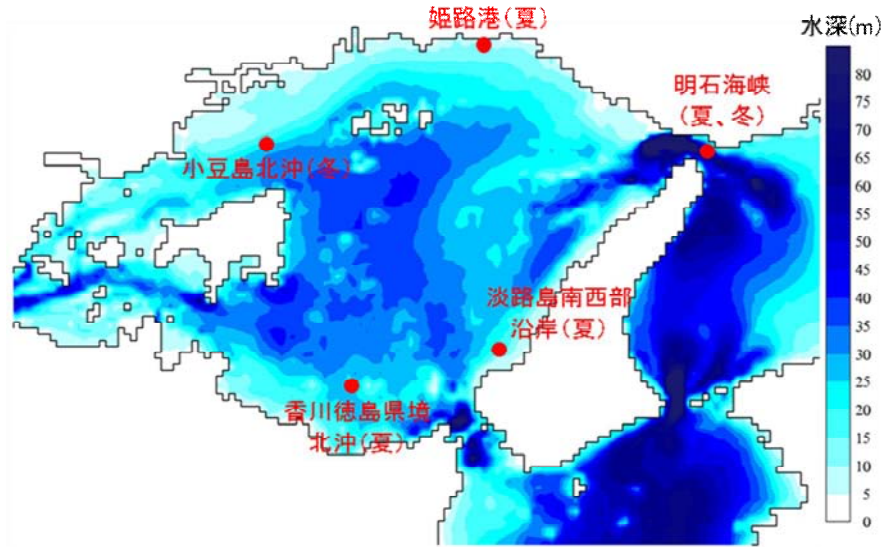
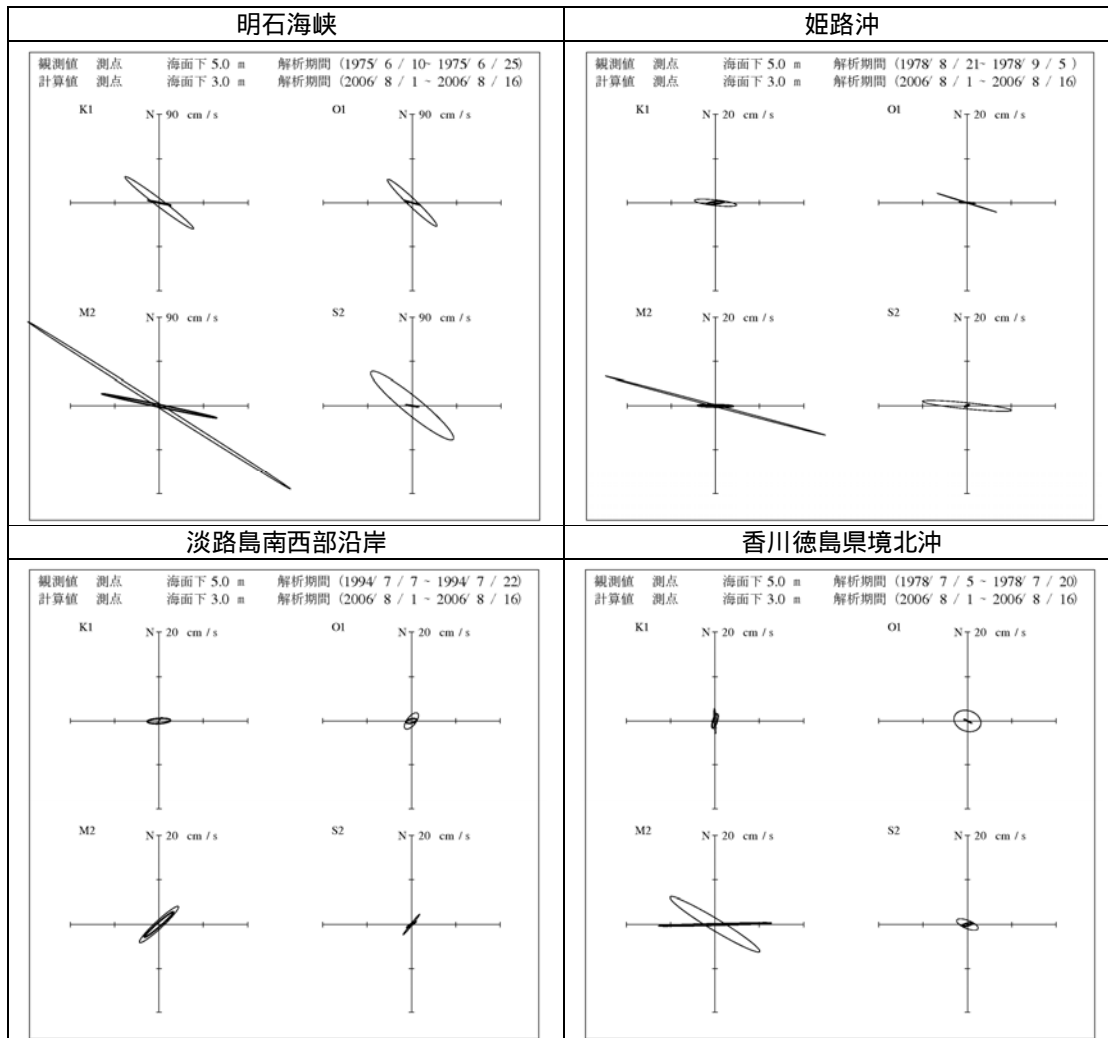


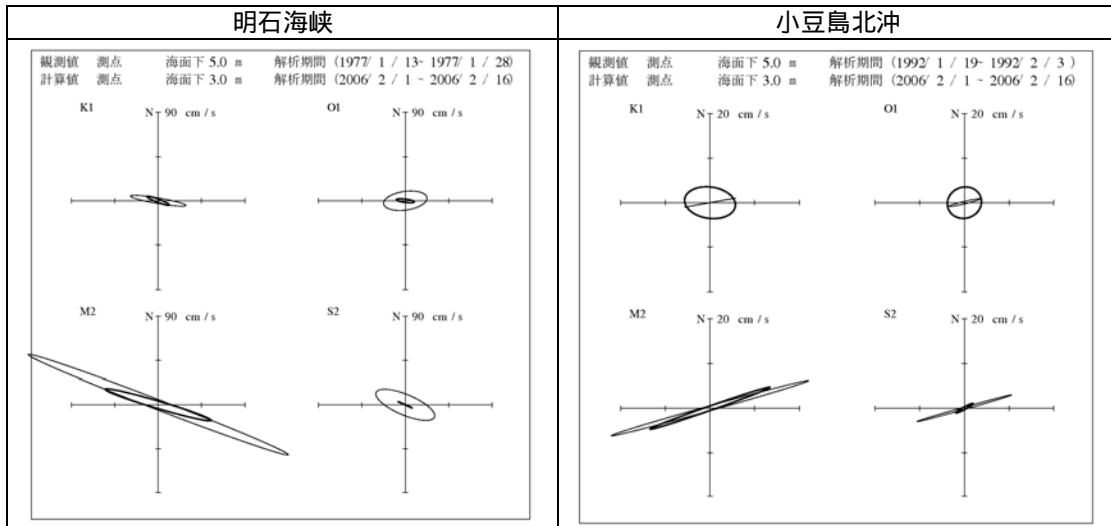
図 3.6 平均流の比較に用いた調査地点（海上保安庁）

図 3.7 に主要 4 分潮の潮流楕円の比較を示す。各分潮の潮流楕円について、計算値と観測値を比べると、楕円の長軸の向きは概ね一致している点が多い。しかし、計算値（太線）が観測値より小さい傾向がある。



[凡例] 細線：観測値、太線：計算値

図 3.7(1) 潮流楕円の比較図（2006 年、夏季）



[凡例] 細線：観測値、太線：計算値

図 3.7(2) 潮流楕円の比較図 (2006 年、冬季)

(2) 平均流

図 2.11 に 2006 年度の夏季および冬季における、平均流の分布図を示す。

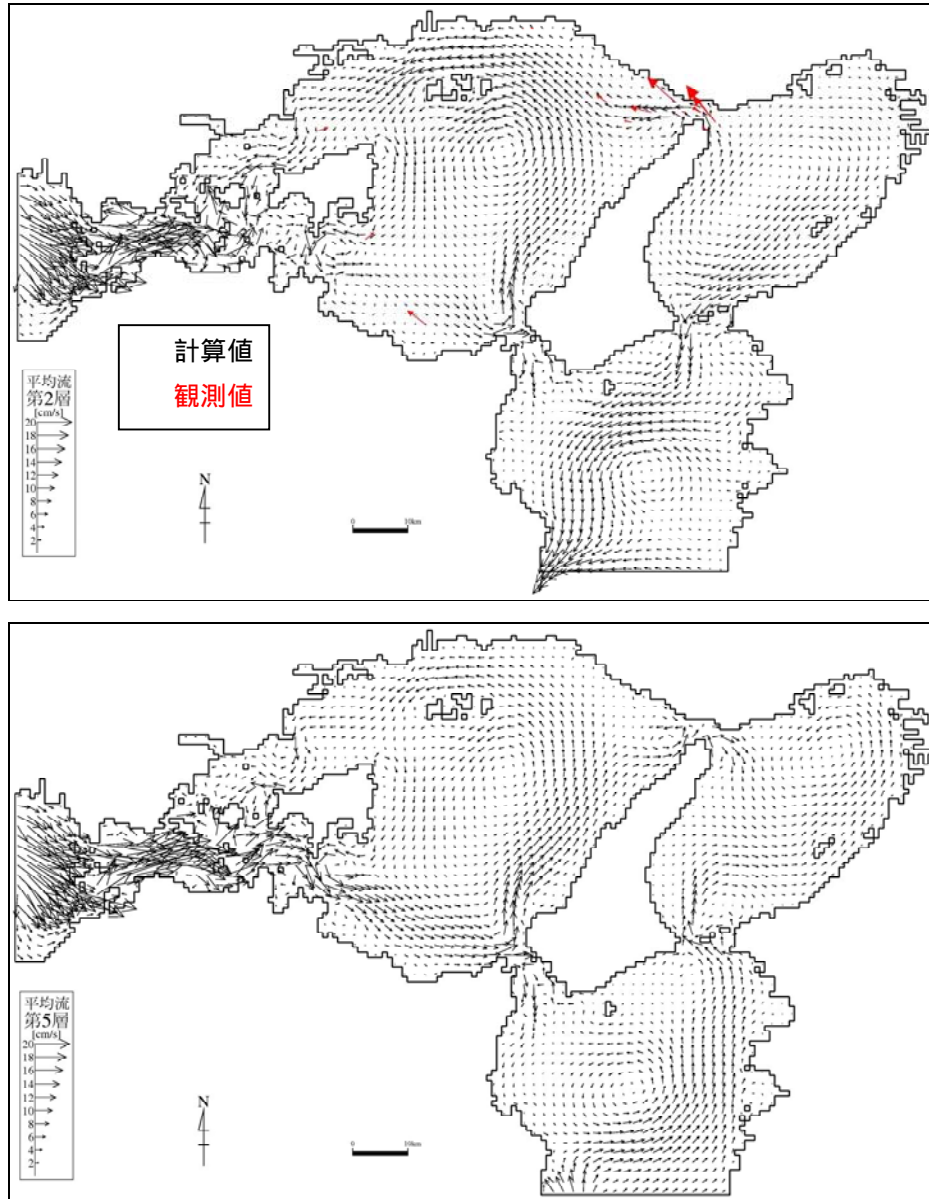


図 3.8 (1) 夏季における平均流の分布図 (2006 年 8 月、上:上層・下:下層)

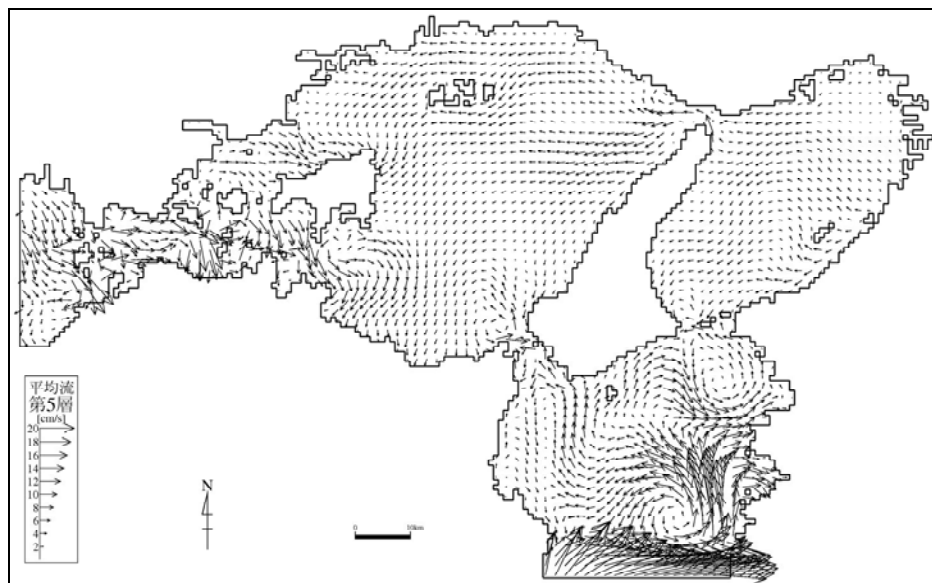
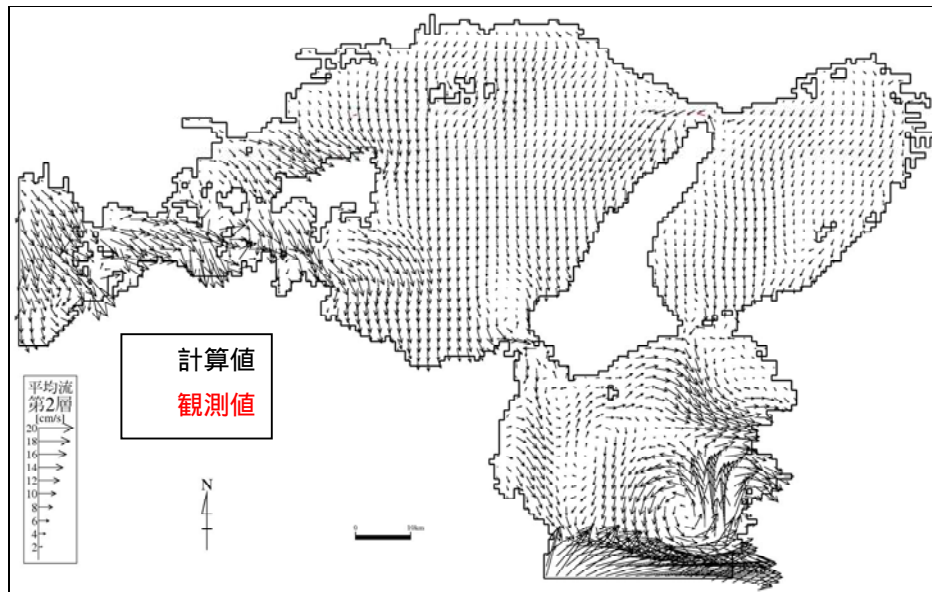


図 3.8 (2) 冬季における平均流の分布図 (2006年2月、上:上層・下:下層)

(3) 水温・塩分

比較に用いる水温・塩分の実測値には、兵庫県が実施した浅海定線調査及び重要水族調査から、図 3.9 に示した調査地点の結果を用いた、いずれも、水深 0m(第 1 層)、水深 10m(第 5 層) について比較を行った。

水温と塩分の計算値と実測値の比較を図 3.10、図 3.11 に示す。

水温、塩分ともに、観測値の季節的な変化や傾向を良く表現していると考えられるが、とくに夏季の表層の塩分について観測値と計算値で乖離がある地点がみられる。

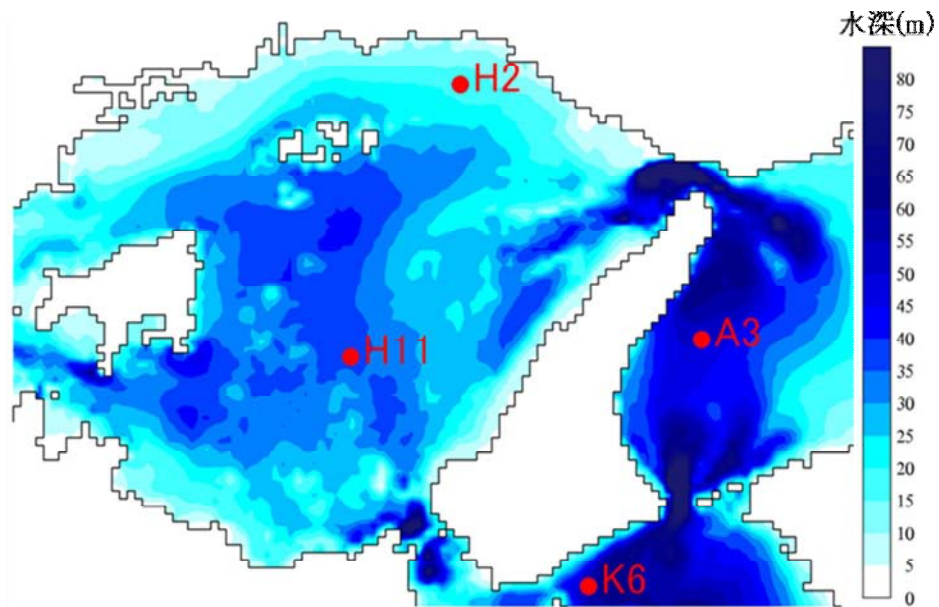


図 3.9 水温・塩分の比較に用いた調査地点(兵庫県浅海定線調査、兵庫県重要水族調査)

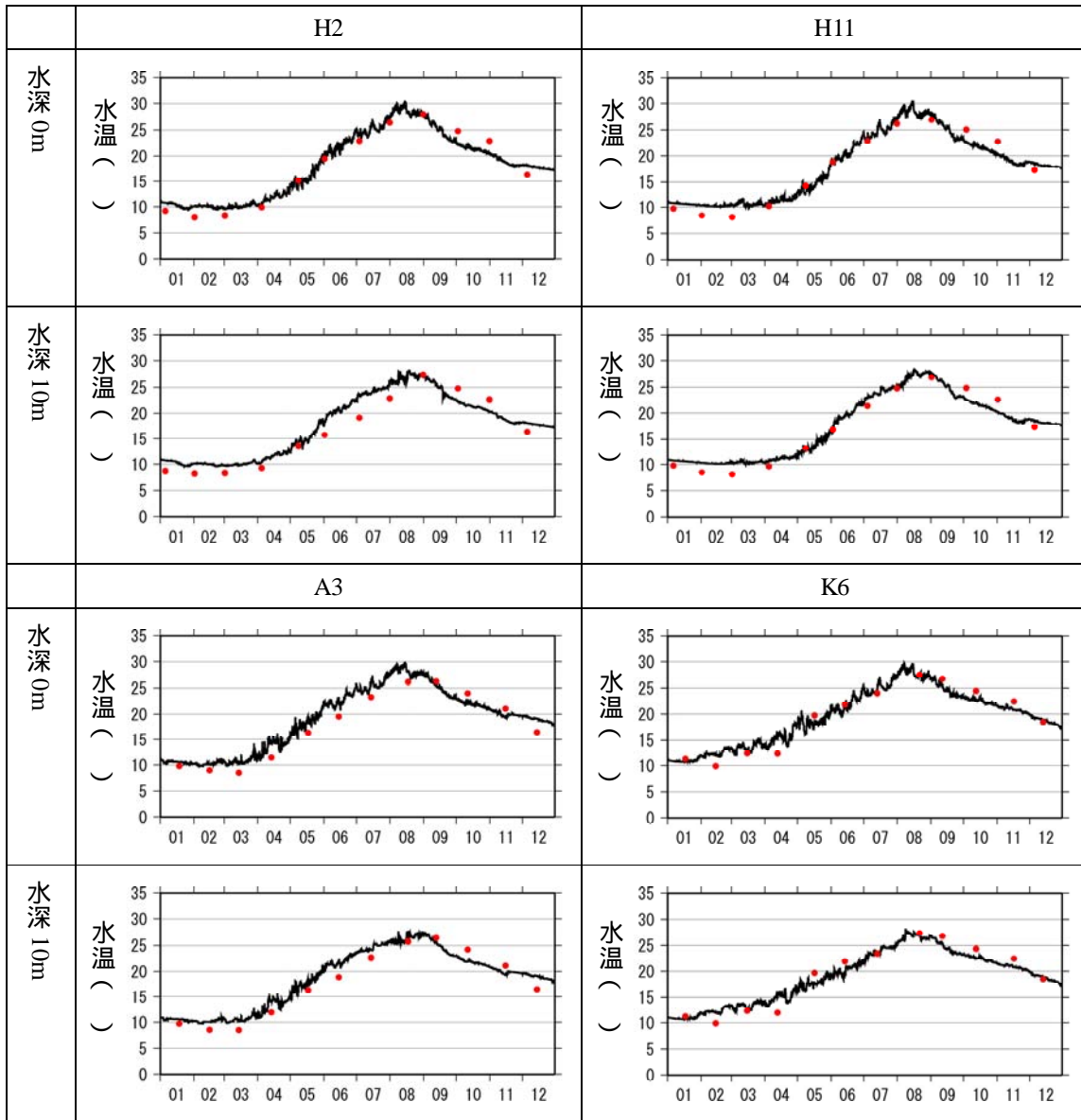


図 3.10 水温の比較 (: 実測値、 : 計算値)